

第198回 (20/Ⅲ期)

群馬県内企業経営動向調査

(ビジネス・サーベイ)

群馬経済研究所研究員 三田正広

◆調査概要

～業況判断DIは前期から持ち直しているものの、依然大幅なマイナスが続く～

- 2020年7～9月期の県内企業の業況判断DIは△15.4と、リーマンショック後の2009年1～3月期（過去最低：△56.2）に次ぐマイナス幅であった前期の△54.8から持ち直しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響により依然大幅なマイナスとなった。
- 内訳項目をみると、生産・販売（売上・受注）DIと採算DIがそれぞれ大幅な「減少」超と「悪化」超となり、設備投資DIでも「減少」超が続いた。また、原材料（仕入）価格DIが2期ぶりに「上昇」超となり、人員判断DIも2期ぶりに「不足」超に転じた。
- 業種別に業況判断DIをみると、製造業が△16.5、非製造業が△14.6となり、11業種で「悪化」超（10頁）。製造業では、完成車メーカーが生産を再開した輸送機器や業務用需要が回復しつつある食料品では「好転」超となったが、全体としては「悪化」超が続いた。非製造業では、外出自粛の緩和や観光キャンペーンなどによりサービス業の旅館・ホテルなどが持ち直しているものの、全体としては引き続き「悪化」超となった。
- 経営上の問題点では、引き続き「売上・受注の停滞、減少」が「求人難」を上回り最多となった（15頁）。
- 2020年10～12月期の業況判断DIは△8.0と、「悪化」超が続く見通しである。

項目別DI推移

(数字の前の「△」はマイナスを意味する)

年・月期	業況判断	生産・販売 (売上・受注)	製商品 (販売) 価格	原材料 (仕入) 価格	採 算	設備投資	資金繰り	在庫水準	人員判断
18・4～6	0.5	△ 1.2	1.5	33.5	△ 9.7	△ 0.2	△ 0.7	△11.0	△33.0
7～9	2.9	4.1	1.3	27.4	△ 1.1	1.5	4.6	△13.5	△40.8
10～12	4.6	8.1	3.5	30.0	△ 3.0	1.7	0.7	△11.8	△37.1
19・1～3	△ 7.6	△11.4	1.4	25.2	△11.6	△ 1.5	△ 3.2	△ 8.7	△40.4
4～6	△ 1.4	△ 4.4	3.1	23.4	△ 6.9	△ 4.5	2.3	△14.3	△34.0
7～9	△ 0.7	△ 0.9	0.0	14.6	△ 3.7	△ 1.6	△ 0.3	△10.1	△39.7
10～12	△ 6.6	△ 8.1	1.2	18.0	△ 9.7	△ 0.5	△ 0.3	△13.5	△36.5
20・1～3	△17.7	△19.9	△ 0.7	14.0	△19.2	△ 5.4	△ 1.6	△ 9.6	△32.2
4～6	△54.8	△57.5	△13.2	△ 2.8	△51.2	△24.3	△11.7	△18.7	2.6
7～9	△15.4	△15.1	△ 4.6	8.0	△18.8	△13.4	0.6	△ 9.2	△11.3
(前 期 比)	(39.4)	(42.4)	(8.6)	(10.8)	(32.4)	(10.9)	(12.3)	(9.5)	(△13.9)
(前回予測比)	(17.4)	(18.0)	(6.7)	(9.3)	(14.6)	(8.4)	(17.6)	(1.8)	(△ 9.6)
20・10～12見通し	△ 8.0	△ 9.7	△ 3.3	6.2	△14.8	△13.4	△ 3.8	△ 4.2	△15.3
(前 期 比)	(7.4)	(5.4)	(1.3)	(△ 1.8)	(4.0)	(0.0)	(△ 4.4)	(5.0)	(△ 4.0)
D I	好転－悪化	増加－減少	上昇－低下	上昇－低下	好転－悪化	増加－減少	余裕－窮屈	不足－過剰	過剰－不足

◆調査要領

1. 調査の目的

群馬県内の景気動向と先行きを予測し、県内主要産業の実態を把握する。

2. 調査対象企業

群馬銀行の取引先を中心に1039社

回答社数481社（回答率46.3%）うち製造業206社 非製造業275社

3. 調査方法

記名式で当研究所の指定した項目について、その実績と見通しを記入するよう依頼した。

4. 調査時期

2020年8月上旬～9月上旬

5. 調査対象期間

2020年7～9月期実績、2020年10～12月期見通し（前期比）

◆回答状況

調査回答数

	会社数	構成比 (%)	うち 中小企業	地域別		
				中央部	東 部	その他
製 造 業	206	42.8	198	82	90	34
食 料 品	27	5.6	27	16	7	4
織 維	13	2.7	13	2	10	1
木 材 木 製 品	10	2.1	10	4	3	3
窯 業 土 石	15	3.1	15	7	4	4
電 気 機 器	19	4.0	18	6	8	5
輸 送 機 器	23	4.8	20	9	13	1
金 属 製 品	29	6.0	29	10	17	2
一 般 機 械	18	3.7	17	10	5	3
そ の 他	52	10.8	49	18	23	11
非 製 造 業	275	57.2	261	159	64	52
卸 売 業	68	14.1	65	47	15	6
小 売 業	39	8.1	34	30	6	3
建 設 業	77	16.0	74	35	21	21
サ ー ビ ス 業	91	18.9	88	47	22	22
合 計	481	100.0	459	241	154	86

注1：地域別

中央部…前橋・高崎地域
東 部…桐生・伊勢崎・太田・館林地域
その他…上記以外の地域

注2：中小企業

製造業……資本金3億円以下または
従業員300人以下
卸売業……資本金1億円以下または
従業員100人以下
小売業……資本金5千万円以下または
従業員50人以下
サービス業…資本金5千万円以下または
従業員100人以下

注3：その他の製造業に含まれる業種

パルプ・紙・紙加工品製造業
印刷・同関連業
化学工業
石油製品・石炭製品製造業
プラスチック製品製造業
ゴム製品製造業
その他、他に区分されない製造業

■本文中にあるDIについて

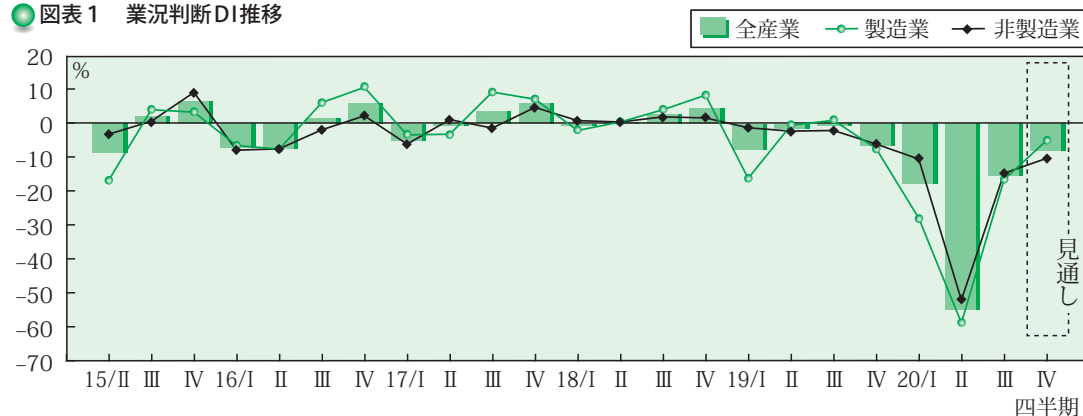
DIは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略。好転した企業の割合から悪化した企業の割合を差し引いたもので、企業経営者の景況判断をみる指標である。

例えば、回答した企業のうち30%の企業で生産が増加し、10%の企業が減少した場合、DI値は「 $30 - 10 = 20$ 」となる。DI値は、好不況等の浸透度を測るためのもので、量的大きさを測ることを直接の目的としていない。このため、DI値から生産が高水準であるのか、低水準であるのかの判断が困難な面もあるので、従来からの推移をみて増加傾向にあるのか、低下傾向にあるのかを判断する。

1. 自社業況判断

～過去2番目のマイナス幅であった前期から持ち直しているものの、
新型コロナウイルス感染症の影響により依然大幅なマイナスが続く～

●図表1 業況判断DI推移



	20/II 実績	20/III(7-9月)		20/IV 見通し
		前回予測	実績	
好転	6.7	(11.3)	16.5	15.0
変わらず	31.8	(44.6)	51.6	62.0
悪化	61.5	(44.1)	31.9	23.0
全産業DI	△54.8	(△32.8)	△15.4	△8.0

製造業DI	△58.6	(△27.9)	△16.5	△4.9
食料品	△44.0	(△32.0)	29.6	11.1
繊維	△28.6	(△42.9)	△61.5	△30.8
木材木製品	△88.9	(△44.5)	△20.0	△20.0
窯業土石	△30.0	(△30.0)	△46.7	0.0
電気機器	△62.5	(△25.0)	△15.7	△5.3
輸送機器	△90.6	(9.4)	43.5	26.1
金属製品	△54.5	(△27.3)	△55.2	△13.8
一般機械	△66.7	(△27.8)	△16.7	△16.7
その他	△53.0	(△43.1)	△25.0	△9.6
非製造業DI	△51.9	(△36.7)	△14.6	△10.2
卸売業	△71.5	(△52.4)	△23.9	△3.0
小売業	△53.5	(△39.6)	△10.3	△15.3
建設業	△16.7	(△29.2)	△9.1	△13.0
サービス	△65.2	(△30.4)	△14.4	△11.1

【20年7～9月期】

○全産業

前期の△54.8から持ち直しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響により全体のDIは△15.4と依然大幅なマイナスとなった。11業種で「悪化」超となり、「悪化」超は7期連続。

○製造業

完成車メーカーが生産を再開した輸送機器や業務用需要が回復しつつある食料品では大幅な「好転」超。しかし、7業種で「悪化」超が続き、製造業全体のDIは△16.5と4期連続の「悪化」超。

○非製造業

小売業の乗用車販売やサービス業の旅館・ホテルなどでは持ち直しがみられたが、非製造業全体のDIは△14.6となり、7期連続の「悪化」超。

【20年10～12月期（見通し）】

○全産業

DIは△8.0と若干持ち直すものの、「悪化」超が続く見通し。

○製造業

輸送機器や食料品では「好転」超が続くが、製造業全体としては引き続き「悪化」超となる見通し。

○非製造業

非製造業全体でも「悪化」超が続く見通し。

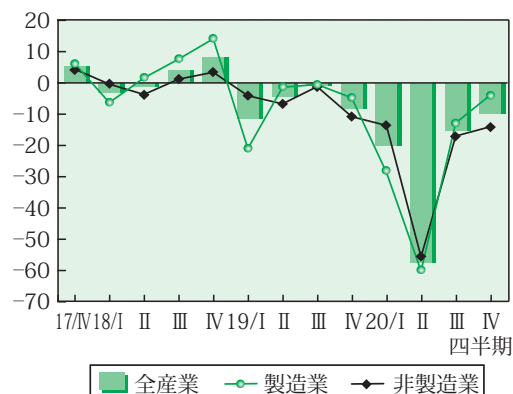
2. 項目別動向

(1)生産・販売(売上・受注)

～持ち直すも、依然大幅な「減少」超～

	20/Ⅱ 実績	20/Ⅲ(7-9月) 前回予測	20/Ⅲ(7-9月) 実績	20/Ⅳ 見通し
増 加	8.0	(13.7)	19.2	17.5
横ばい	26.5	(39.5)	46.5	55.3
減 少	65.5	(46.8)	34.3	27.2
全産業DI	△57.5	(△33.1)	△15.1	△9.7
製造業DI	△60.1	(△26.4)	△12.8	△3.9
食料品	△40.0	(△24.0)	25.9	22.2
繊維	△28.6	(△21.4)	△58.4	△41.7
木材木製品	△88.9	(△44.5)	△10.0	△30.0
窯業土石	△20.0	(△20.0)	△50.0	7.2
電気機器	△68.8	(△31.2)	△16.7	△5.5
輸送機器	△90.6	(9.4)	34.8	26.1
金属製品	△54.5	(△21.3)	△51.8	△10.4
一般機械	△72.2	(△33.3)	0.0	△22.2
その他	△58.9	(△49.0)	△15.4	△9.6
非製造業DI	△55.6	(△38.4)	△17.0	△14.0
卸売業	△74.7	(△54.0)	△28.0	△13.2
小売業	△58.1	(△34.8)	△15.4	△15.3
建設業	△22.5	(△33.8)	△6.7	△13.3
サービス	△67.0	(△33.0)	△17.8	△14.5

● 図表2-1 生産・販売(売上・受注)DI推移(20/Ⅳは見通し)



【20年7～9月期】

○製造業

前期の生産低迷からの反動があった輸送機器や業務用需要が持ち直す食料品で「増加」超も、全体では「減少」超。

○非製造業

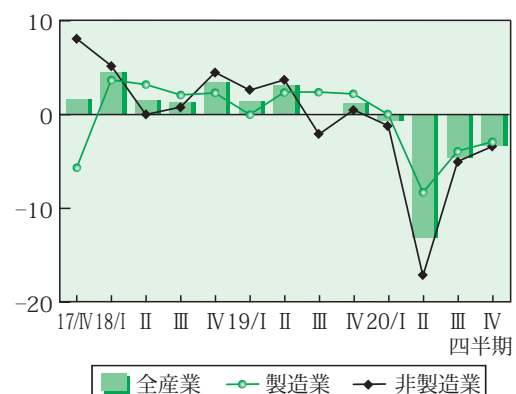
全業種で「減少」超だが、キャンペーンなどによりサービス業の旅館・ホテルでは前期からの回復もみられた。

(2)製商品(販売)価格

～横ばいが約9割を占める～

	20/Ⅱ 実績	20/Ⅲ(7-9月) 前回予測	20/Ⅲ(7-9月) 実績	20/Ⅳ 見通し
上 昇	1.9	(1.9)	3.4	4.5
横ばい	83.0	(84.9)	88.6	87.7
低 下	15.1	(13.2)	8.0	7.8
全産業DI	△13.2	(△11.3)	△4.6	△3.3
製造業DI	△8.3	(△10.7)	△3.9	△2.9
食料品	△16.0	(△8.0)	0.0	7.4
繊維	△35.7	(△35.7)	△33.3	△25.0
木材木製品	△11.1	(△22.2)	△10.0	△20.0
窯業土石	0.0	(△20.0)	0.0	0.0
電気機器	0.0	(0.0)	0.0	0.0
輸送機器	△9.4	(△3.1)	0.0	△4.3
金属製品	△3.1	(0.0)	0.0	△3.5
一般機械	0.0	(△5.6)	△5.6	0.0
その他	△6.0	(△18.0)	△3.9	△2.0
非製造業DI	△17.2	(△11.7)	△5.0	△3.4
卸売業	△9.7	(△16.2)	△7.4	0.0
小売業	△31.0	(△9.5)	5.1	0.0
建設業	△10.1	(△11.6)	△5.4	△5.4
サービス	△21.7	(△9.6)	△7.3	△6.1

● 図表2-2 製商品(販売)価格DI推移(20/Ⅳは見通し)



【20年7～9月期】

○製造業

「上昇」超の業種はなく、繊維や木材木製品など4業種で「低下」超となった。

○非製造業

石油製品販売価格の下げ止まりなどから小売業が「上昇」超に転じたが、非製造業全体では「低下」超が続いた。

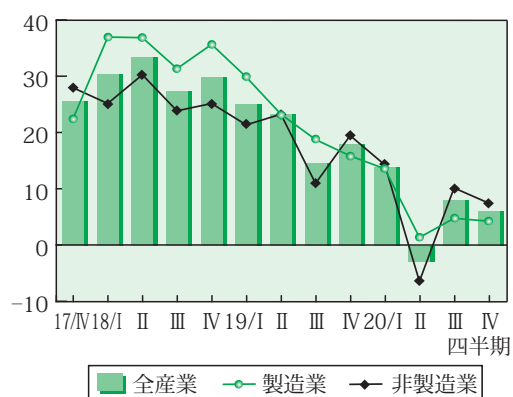
(3)原材料（仕入）価格

～2期ぶりに「上昇」超に転じる～

	20/Ⅱ 実績	20/Ⅲ(7-9月) 前回予測	20/Ⅲ(7-9月) 実績	20/Ⅳ 見通し
上 昇	8.4	(7.1)	12.9	10.1
横ばい	80.4	(84.5)	82.2	86.0
低 下	11.2	(8.4)	4.9	3.9
全産業DI	△2.8	(△1.3)	8.0	6.2

製造業DI	1.5	(0.5)	4.9	4.4
食料品	8.0	(4.0)	25.9	11.1
繊維	7.1	(7.2)	0.0	△16.7
木材木製品	△11.1	(△11.1)	△10.0	△10.0
窯業土石	10.0	(△10.0)	7.1	0.0
電気機器	18.8	(12.5)	5.6	0.0
輸送機器	3.1	(6.2)	4.4	4.4
金属製品	△9.1	(△3.0)	6.9	17.2
一般機械	5.5	(△5.6)	△5.6	11.1
その他	△4.0	(△2.0)	0.0	1.9
非製造業DI	△6.3	(△2.7)	10.3	7.6
卸売業	△1.6	(△6.5)	4.4	8.9
小売業	△21.4	(△4.7)	10.2	5.1
建設業	1.4	(0.0)	14.7	13.4
サービス	△8.5	(△1.2)	11.0	2.4

● 図表2-3 原材料(仕入)価格DI推移(20/Ⅳは見通し)



【20年7～9月期】

○製造業

食料品や窯業土石など5業種で「上昇」超となり、製造業全体のDIも引き続き「上昇」超となった。

○非製造業

小売業やサービス業などが「上昇」超に転じ、非製造業全体のDIは2期ぶりに「上昇」超となった。

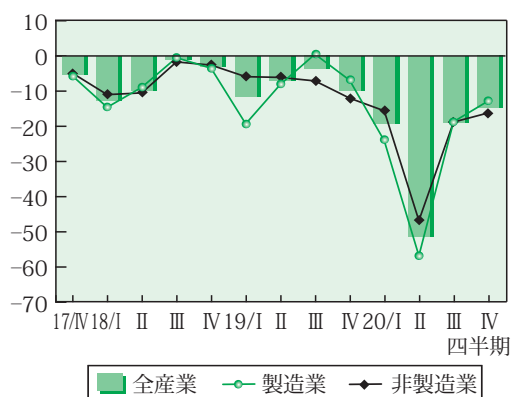
(4)採 算

～持ち直しているものの、
大幅な「悪化」超が続く～

	20/Ⅱ 実績	20/Ⅲ(7-9月) 前回予測	20/Ⅲ(7-9月) 実績	20/Ⅳ 見通し
好 転	5.3	(7.4)	11.8	9.5
変わらず	38.2	(51.8)	57.6	66.2
悪 化	56.5	(40.8)	30.6	24.3
全産業DI	△51.2	(△33.4)	△18.8	△14.8

製造業DI	△56.8	(△31.1)	△18.7	△12.8
食料品	△52.0	(△32.0)	0.0	△7.4
繊維	△50.0	(△75.0)	△66.7	△50.0
木材木製品	△77.8	(△33.3)	△10.0	△20.0
窯業土石	△30.0	(△30.0)	△42.9	7.1
電気機器	△43.7	(△25.0)	△11.1	△5.6
輸送機器	△81.3	(△12.5)	34.8	8.7
金属製品	△48.5	(△24.2)	△38.0	△27.6
一般機械	△66.7	(△33.3)	△11.1	△16.7
その他	△53.0	(△37.3)	△30.8	△13.5
非製造業DI	△46.8	(△35.1)	△18.8	△16.2
卸売業	△59.7	(△45.2)	△20.9	△15.0
小売業	△53.5	(△34.9)	△15.4	△12.8
建設業	△16.9	(△28.2)	△16.9	△16.9
サービス	△58.4	(△33.7)	△20.5	△18.1

● 図表2-4 採算DI推移(20/Ⅳは見通し)



【20年7～9月期】

○製造業

前期からの反動で輸送機器が大幅な「好転」超となるも、製造業全体では「悪化」超が続いた。

○非製造業

前期の経済活動停滞から持ち直しているものの、引き続き全業種が「悪化」超となった。

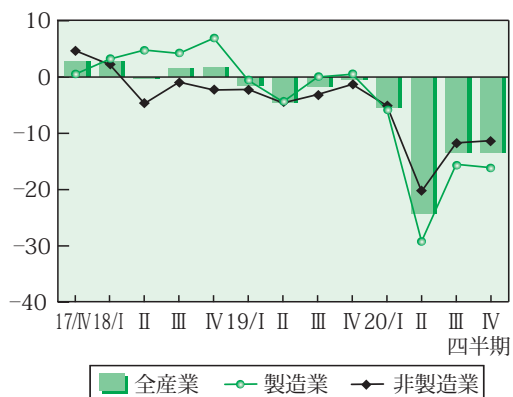
(5)設備投資

～持ち直しているものの、
「減少」超が続く～

	20/Ⅱ 実績	20/Ⅲ(7-9月) 前回予測	20/Ⅲ(7-9月) 実績	20/Ⅳ 見通し
増 加	7.9	(6.2)	11.6	8.0
横ばい	59.9	(65.8)	63.4	70.6
減 少	32.2	(28.0)	25.0	21.4
全産業DI	△24.3	(△21.8)	△13.4	△13.4

製造業DI	△29.2	(△21.8)	△15.5	△16.1
食料品	△20.0	(△20.0)	△3.7	△18.5
繊維	△41.7	(△50.0)	△41.7	△33.3
木材木製品	△14.3	(△42.9)	△10.0	△20.0
窯業土石	△10.0	(△20.0)	△14.3	△7.2
電気機器	△20.0	(△13.3)	△17.6	△11.7
輸送機器	△56.3	(△15.6)	△13.7	△13.7
金属製品	△15.7	(△9.4)	△14.3	△10.7
一般機械	△27.8	(△33.3)	5.6	△5.6
その他	△31.4	(△23.5)	△25.5	△21.6
非製造業DI	△20.3	(△21.8)	△11.7	△11.3
卸売業	△28.5	(△37.5)	△28.3	△25.0
小売業	△19.5	(△9.7)	0.0	△19.4
建設業	△16.0	(△23.2)	△5.6	△7.1
サービス	△18.6	(△16.3)	△9.8	△1.2

図表2-5 設備投資DI推移(20/Ⅳは見通し)



【20年7～9月期】

○製造業

製造業全体では引き続き「減少」超。製造業全体の設備投資目的としては、老朽化対応、合理化・省力化が中心であった。

○非製造業

卸売業など3業種で「減少」超。非製造業全体の設備投資目的では老朽化対応が目立った。

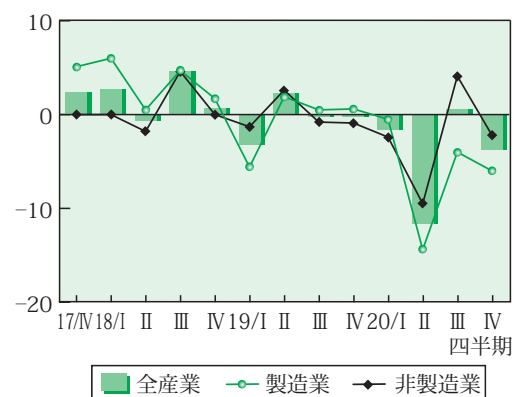
(6)資金繰り

～「窮屈」との回答が減少し、
「普通」が増加～

	20/Ⅱ 実績	20/Ⅲ(7-9月) 前回予測	20/Ⅲ(7-9月) 実績	20/Ⅳ 見通し
余 裕	8.7	(6.0)	11.5	8.1
普 通	70.9	(71.0)	77.6	80.0
窮 屈	20.4	(23.0)	10.9	11.9
全産業DI	△11.7	(△17.0)	0.6	△3.8

製造業DI	△14.4	(△22.5)	△4.0	△6.0
食料品	△20.9	(△20.9)	7.4	3.7
繊維	△38.5	(△53.8)	△25.0	△41.7
木材木製品	△11.1	(△33.3)	0.0	0.0
窯業土石	△20.0	(△20.0)	△7.2	△7.2
電気機器	△6.2	(△12.5)	15.8	15.8
輸送機器	△31.2	(△37.5)	△9.1	△4.6
金属製品	△12.2	(△18.2)	△17.3	△13.8
一般機械	△11.1	(△5.5)	0.0	0.0
その他	0.0	(△17.0)	△3.9	△9.6
非製造業DI	△9.5	(△12.6)	4.1	△2.2
卸売業	△5.0	(△10.0)	7.4	5.9
小売業	△7.1	(△7.2)	8.1	0.0
建設業	△1.4	(△12.4)	11.7	1.3
サービス	△20.7	(△17.2)	△7.0	△12.8

図表2-6 資金繰りDI推移(20/Ⅳは見通し)



【20年7～9月期】

○製造業

電気機器や食料品が「余裕」超に転じた。製造業全体では小幅ながら「窮屈」超が続いた。

○非製造業

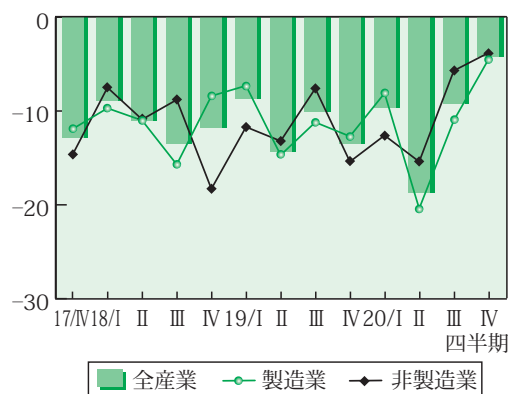
サービス業で引き続き「窮屈」超となるも、建設業など3業種では「窮屈」との回答が減り「余裕」超に転じた。

(7)在庫水準

～経済活動再開を受け、
「過剰」超幅は縮小～

	20/Ⅱ 実績	20/Ⅲ(7～9月) 前回予測	20/Ⅲ(7～9月) 実績	20/Ⅳ 見通し
不足	3.9	(4.2)	6.9	5.6
適正	73.5	(80.6)	77.0	84.6
過剰	22.6	(15.2)	16.1	9.8
全産業DI	△18.7	(△11.0)	△9.2	△4.2
製造業DI	△20.4	(△12.1)	△11.0	△4.5
食料品	△40.0	(△32.0)	△11.1	△3.7
繊維	△15.4	(0.0)	8.3	0.0
木材木製品	△11.1	(0.0)	△10.0	△10.0
窯業土石	0.0	(0.0)	△15.4	△7.7
電気機器	△23.5	(△11.8)	0.0	5.6
輸送機器	△32.2	(△16.1)	△18.2	△4.6
金属製品	△19.4	(△12.9)	△10.3	△3.4
一般機械	△16.7	(0.0)	0.0	11.8
その他	△11.6	(△11.6)	△19.3	△13.5
非製造業DI	△15.4	(△8.7)	△5.7	△3.8
卸売業	△14.6	(△12.9)	△10.4	△5.9
小売業	△16.6	(△2.3)	2.6	0.0
建設業	0.0	(0.0)	0.0	0.0
サービス	0.0	(0.0)	0.0	0.0

図表2-7 在庫水準DI推移(20/Ⅳは見通し)



注)非製造業のうち、建設業、サービス業は対象外

【20年7～9月期】

○製造業

6業種で「過剰」超となるも、経済活動再開を受け食料品などでは「過剰」超幅が縮小した。

○非製造業

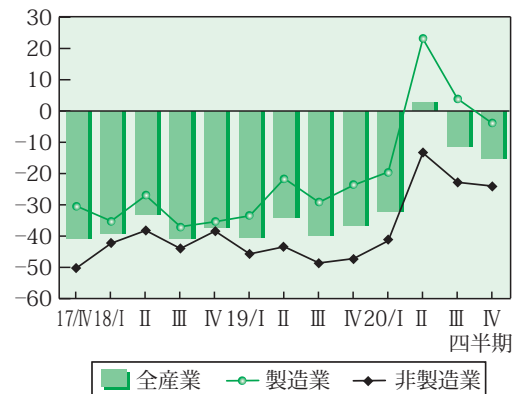
小売業が「不足」超に転じた。一方で、製造業・建設業向けが低迷した卸売業では「過剰」超が続いた。

(8)人 員

～経済活動再開や外出自粛の緩和から、
「不足」超に転じる～

	20/Ⅱ 実績	20/Ⅲ(7～9月) 前回予測	20/Ⅲ(7～9月) 実績	20/Ⅳ 見通し
過剰	21.5	(17.7)	12.4	9.6
適正	59.6	(62.9)	63.9	65.5
不足	18.9	(19.4)	23.7	24.9
全産業DI	2.6	(△1.7)	△11.3	△15.3
製造業DI	23.1	(17.8)	3.9	△3.9
食料品	30.5	(17.4)	△11.1	△18.5
繊維	7.7	(23.1)	25.0	25.0
木材木製品	44.4	(33.3)	0.0	0.0
窯業土石	△20.0	(△10.0)	△28.6	△28.6
電気機器	5.8	(11.7)	5.3	0.0
輸送機器	50.0	(31.2)	13.6	4.5
金属製品	27.3	(24.2)	13.8	0.0
一般機械	11.1	(5.6)	△5.9	△5.9
その他	18.9	(13.2)	9.6	△3.8
非製造業DI	△13.4	(△16.9)	△22.8	△24.0
卸売業	△9.7	(△8.0)	△11.7	△11.8
小売業	△2.3	(△7.1)	△5.4	△13.5
建設業	△35.7	(△35.7)	△49.3	△49.3
サービス	△3.3	(△12.2)	△15.3	△15.3

図表2-8 人員DI推移(20/Ⅳは見通し)



【20年7～9月期】

○製造業

繊維、金属製品、輸送機器など5業種で「過剰」超となったが、製造業全体の「過剰」超幅は大きく縮小した。

○非製造業

引き続き建設業で人手不足感が特に強くみられ、4業種とも「不足」超幅が拡大した。

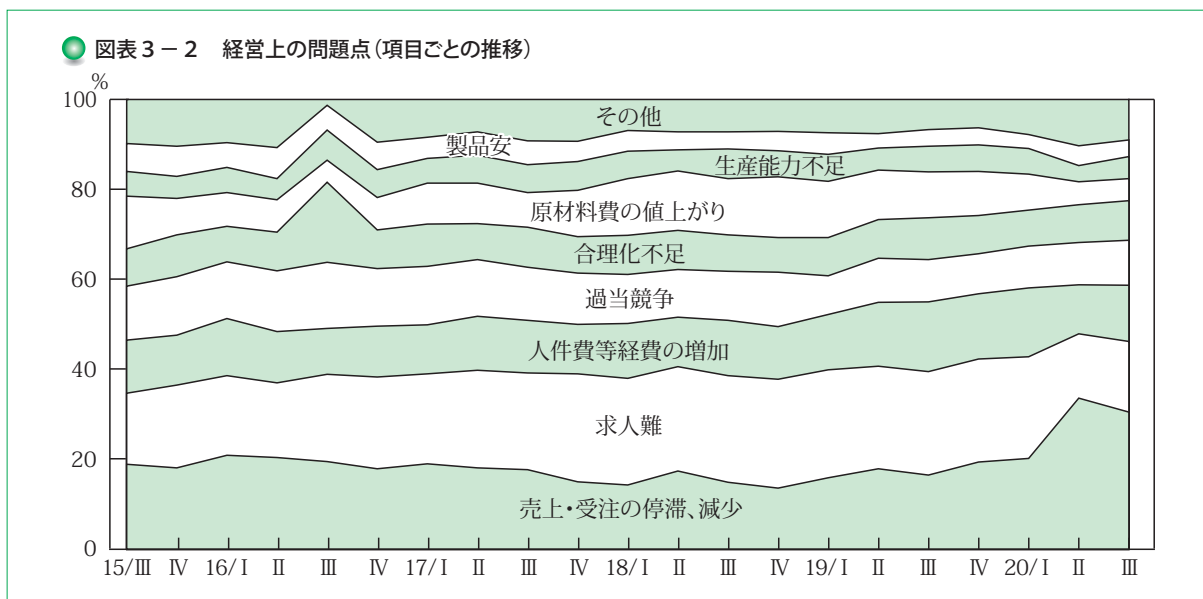
3. 経営上の問題点

～「売上・受注の停滞、減少」が引き続き最多となった～

図表3-1 経営上の問題点

(単位：％)

項目	20年 4～6月期	20年 7～9月期	前期比増減	回答の多い業種
売上・受注の停滞、減少	70.3	64.4	△5.9	繊維、木材木製品、卸売業
求人難	29.9	33.2	3.3	建設業、窯業土石、小売業
人件費等経費の増加	22.9	26.5	3.6	食料品、木材木製品、サービス業
過当競争	19.7	21.0	1.3	窯業土石、卸売業、木材木製品
合理化不足	17.5	18.7	1.2	輸送機器、食料品、その他製造業
原材料費の値上がり	10.7	10.4	△0.3	食料品、一般機械、繊維
生産能力不足	7.5	10.4	2.9	電機機器、一般機械、建設業



経営上の問題点をみると、1位「売上・受注の停滞、減少」、2位「求人難」、3位「人件費等経費の増加」の順となった。前回に引き続き「売上・受注の停滞、減少」が「求人難」を大きく上回り最多となった。

回答の多い業種は、「売上・受注の停滞、減少」では繊維、木材木製品、卸売業など、「求人難」では建設業、窯業土石、小売業など、「人件費等経費の増加」では食料品、木材木製品、サービス業などとなった。